

千里金蘭大学建学の精神
志を同じくするものが協力すれば、何事でもなしとげることができる。 その言葉は、蘭の花のようにかぐわしい。
大学の教育理念・目的（教育目的）
本学は、建学の精神に則り、豊かな教養と深い専門知識を有し、高い志のもと、社会に貢献し信頼される人材を養成することを目的とする。
大学の教育目標
千里金蘭大学の教育目的を実現するため、自ら考え自ら学ぶ姿勢を身につけることで、他者への共感・他者との協調・他者への奉仕を実践し、持続可能な社会の構築に貢献できる、すなわち自らを育て自立することのできる女性の育成を目標とする。

生活科学部児童教育学科 教育研究上の目的（人材養成の目的）	
豊かな人間性と高い専門性を備え、子どもの成長・発達を支援し、社会に貢献する意欲のある保育者・教育者の育成を目的とする。	
生活科学部児童教育学科 教育目標	
<知識・技能>	(1) 子どもの豊かな発達と学びを支援できる幅広い教養と高い専門知識・技能を養い、総合的に活用する力を養う。
<思考力>	(2) 子どもを取り巻く環境の変化に柔軟に対応できる思考力と保育者・教育者として自主的に学び続ける力を養う。
<実践力>	(3) 保育・教育の現場で発揮できる実践的指導力と、他者と協働し積極的に社会参画し貢献できる力を養う。

生活科学部 児童教育学科 卒業認定・学位授与の方針 【ディプロマ・ポリシー】

児童教育学科では、豊かな人間性と高い専門性を備え、子どもの成長・発達を支援し、社会に貢献する意欲のある保育者・教育者を育成するために、所定の課程を修め、124単位の単位修得と必修等の条件を充たしたうえで、次のような目標を達成した者に学位（児童学）を授与する。		
<知識・技能>	教養・専門性・総合力	自らを育て自立した女性として、幅広く深い教養を修めるとともに、子どもの豊かな発達と学びの支援に求められる保育・教育・福祉に関する専門的知識・技術を習得し、総合的に活用する力を身につけている。
<思考力>	問題解決・発見力	子どもを取り巻く環境の変化や子どもに関する諸問題を発見し解決する力を身につけている。
	論理的・批判的思考力	子どもに関する諸問題に柔軟に判断し、対応できる論理的・合理的・批判的思考力を身につけている。
	客観的思考力	自身の知識・技能を客観的に判断・省察し、それに基づき計画を見直し・修正する力を身につけている。
	生涯学習力	現代社会に広く興味を有し、保育者・教育者として自ら学び続ける力を身につけている。
<実践力>	自律的活動力	自己を律し、自立して活動する力を身につけている。
	人間関係形成力	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもや保護者に対して愛情深く寛容で温かい援助・指導を行える力を身につけている。 ・他者と協調・協働して取り組めるコミュニケーション力を身につけている。
	社会参画力	積極的な社会参画を行い、市民社会の一員としての責任を自覚し行動する力を身につけている。

生活科学部 児童教育学科 教育課程編成の方針【カリキュラム・ポリシー】

児童教育学科では、ディプロマ・ポリシーに掲げる目標を達成するために、教養教育科目、専門科目を体系的に編成し、講義、演習、実習、インターンシップを適切に組み合わせた授業科目を開講する。
教育課程については、カリキュラム・マップを用いてその体系性や構造を明示する。
教育内容、教育方法、学修成果の評価については、以下のように方針を定める。

1. 教育内容	(1)	高大接続を円滑なものとするため、1年次に初年次教育を行う。
	(2)	深く幅広い知識の修得と豊かな人間性や倫理観の涵養のため、歴史、文化、科学、法律、語学、情報等についての知識・技能を学ぶ。
	(3)	自らを育て自立した女性の自己実現に寄与するため、「女性論」、「社会貢献論」を配置する。
	(4)	保育・教育に必要な基本的かつ専門的知識・技能を多角的に修得するため、専門科目を体系的に編成し、保育士資格・幼稚園教諭免許・小学校教諭免許の取得に必要な科目を系統的に配置する。
	(5)	1年次には、地域に根ざした活動に関わる演習の履修を行い、2年次にインターンシップ等により積極的に地域に貢献する学外活動に参加することで、他者と協働して問題解決にあたる姿勢を養う。
	(6)	保育・幼児教育課程、小学校教育課程に分けて教育課程を設定し、保育所、幼稚園、学校、施設等で子どもや利用者に関わり、体験を通してより良い保育・教育の在り方を理解・考察し、保育力・教育力を身につける。
2. 教育方法	(1)	講義、演習、実習を通して双方向的授業、問題解決型授業を積極的に導入する。具体的には、グループワーク、ディスカッション、ロールプレイ、模擬保育・模擬授業、フィールドワークを用い、多方向的な教育を行う。
	(2)	教育効果を十分にあげられるよう、クラス規模の調整、余裕をもった時間割編成上の配慮、課題の提示、技能の自主練習時間の確保等、授業時間外における学修を充実させる取り組みを行う。
	(3)	保育実習、教育実習にはそれぞれ履修条件を設け、必要な知識や技能の修得の促進を図るとともに、学生が自覚をもって実習に臨む態度を育成する。
	(4)	4年次後期に、教職実践演習等を通じて、保育者・教育者としての到達度について教員、学生自身双方から評価する。
3. 学修成果の評価	(1)	成績評価の基準が規定されており、学生ハンドブックやシラバスへ明記して周知を図る。
	(2)	成績評価の妥当性は必要に応じて学科会議や教授会で審議し、公正に評価が行われるよう配慮する。
	(3)	学修に関する履修カルテを4年間かけて作成し、自己の目標や学生生活、学修成果の自己評価（ふりかえり）を行う。

生活科学部 児童教育学科 入学者選抜の方針【アドミッション・ポリシー】

児童教育学科は、豊かな人間性と高い専門性を備え、子どもの成長・発達を支援し、社会に貢献する意欲のある保育者・教育者の育成を教育目的に掲げている。そのような教育目的の下、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程編成の方針（カリキュラム・ポリシー）に定める人材を育成するために、次に掲げる知識・技能や能力、目的意識・意欲等を備えた学生を求める。

(1)	子ども、保育、教育に積極的な興味・関心を持つ人
(2)	子どもや人と関わることの喜びや楽しさを他の人と共有することができる人
(3)	高等学校までの履修内容のうち、読解力や表現力の基盤として「国語（国語総合）」の基礎知識を身につけている人
(4)	教育や福祉に関する諸問題に対し、自分の考えを持ち、筋道を立てて説明することができる人
(5)	地域活動やボランティア活動等に協力して取り組める人